

中小企業景気動向調査

〔2010年7～9月期の景況/10～12月期の見通し〕

結果概要

7～9月期の景況

- ・ 景況感は5四半期連続で改善。DIは依然としてマイナスだが、リーマンショック直前の水準にまで持ち直した。
- ・ 業種別では、自動車部品製造業と飲食業のDI改善幅が大きい。エコカー補助金終了前の駆け込み需要と猛暑の影響とみられる。
- ・ 残業時間は増加に転じた。(11四半期ぶり)
- ・ 人手余剰感は、ほぼ解消。設備過剰感も緩和されている。

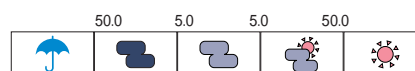
10～12月期の見通し

- ・ 景況感は大幅に悪化する見通し。
- ・ 製造業は自動車の減産や為替の円高を憂慮。非製造業は雇用情勢や所得環境の回復の遅れを懸念。

業種別天気図（業況判断DIによる）

業種	前期 (4～6月期)	今期 (7～9月期)	見通し (10～12月期)	業種	前期 (4～6月期)	今期 (7～9月期)	見通し (10～12月期)
全産業	45.2	30.5	48.4	印刷	15.4	72.7	18.2
製造業	39.2	19.9	49.0	食料品	33.3	31.1	44.8
非製造業	50.2	39.6	48.0	卸売業	53.6	45.2	51.0
自動車部品	32.0	6.8	61.4	小売業	44.2	40.0	53.3
機械器具部	42.4	22.2	40.5	飲食業	76.0	46.1	57.7
金属製品	56.3	47.8	68.9	建設業	64.7	44.8	55.8
窯業・土石	47.4	35.0	55.0	不動産業	34.1	19.1	22.5
木材・木製品	50.0	42.8	21.5	運輸業	38.2	23.7	63.9
繊維製品	34.5	25.9	44.4	サービス業	35.7	41.1	30.2

数値は業況判断DI



業況判断

景況感は5四半期連続で改善。DIは依然としてマイナスだが、リーマンショック直前の水準にまで持ち直す

【全産業】

- 7～9月期の企業の景況感を表す**業況判断DI**（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス30.5となり、前期（4～6月期・マイナス45.2）に比べ14.7ポイント改善した。改善は5四半期連続。

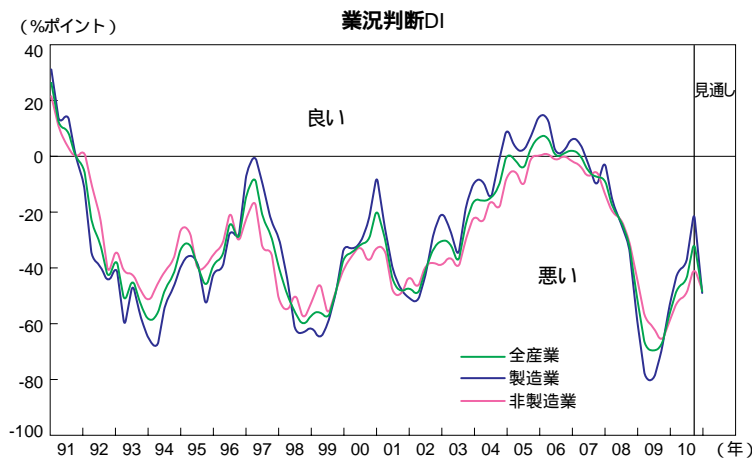
	前期	今期	見通し	変化幅			
	【4～6月期】	【7～9月期】	【10～12月期】	前期	今期	今期	見通し
全産業	45.2	30.5	48.4	14.7		-17.9	
製造業	39.2	19.9	49.0	19.3		-29.1	
非製造業	50.2	39.6	48.0	10.6		-8.4	

（単位：%ポイント 〃はマイナス）

- DIのマイナス30.5は、リーマンショック直前の2008年7～9月期（マイナス30.9）と同水準。ショック前の景況感まで持ち直した格好。
- 大幅な改善がみられたのは**自動車部品製造業**と**飲食業**。エコカー補助金終了にともなう駆け込み需要と猛暑にともなう特需が影響した模様。
- DIのマイナス幅は依然として大きく、全体として景況は上向いていない。
- 10～12月期の**業況判断見通しDI**はマイナス48.4と、悪化の見通しとなっている。
- エコカー補助金の打ち切りにともなう自動車の減産や為替の円高などの影響、あるいは回復の遅れている家計所得や雇用情勢の影響を懸念する声があり、先行き慎重な見方が大勢を占めている。

【製造業】

- 業況判断DI**はマイナス19.9。前期（マイナス39.2）に比べ19.3ポイントの改善。5四半期連続の改善。
- 印刷を除く全業種でDIが改善。
- とりわけ**自動車部品**の改善幅が大きい。（38.8ポイント改善）自動車部品のDIは2年半ぶりにプラスに転じた。エコカー補助金の駆け込み需要などが寄与した。



調査レポート

- ・ 印刷の悪化は、企業の広告宣伝費などの削減が続き、印刷需要が減退していることが要因とみられる。
- ・ **業況判断見通しDI**はマイナス49.0。29.1ポイントの悪化が見込まれている。
- ・ **自動車部品**は68.2ポイントの大幅悪化を予想。

〔非製造業〕

- ・ **業況判断DI**はマイナス39.6。前期（マイナス50.2）に比べ10.6ポイント上昇し、4四半期連続の改善となった。
- ・ **サービス業**以外の全業種でDIが改善。
- ・ とくに**飲食業**の改善幅が目立つ。（29.9ポイント改善）飲食業のDIの水準は、依然として低く、景況感は冴えないものの、この夏の猛暑が売上増加に結びついた企業もあった模様。
- ・ **サービス業**はずぶかに悪化したが、介護・医療、ソフトウェア開発、機械メンテナンスなどは引き続き堅調を維持した。
- ・ **業況判断見通しDI**はマイナス48.0と、8.4ポイントの悪化が見込まれている。
- ・ **運輸業**は大幅な悪化を見込んでいる。（40.2ポイント悪化の見込み）

		7～9月期の業況		10～12月期の見通し	
		改善した業種	悪化した業種	改善を見込む業種	悪化を見込む業種
製造業	自動車部品	印刷	非製造業	木材・木製品	自動車部品
	機械器具部品	サービス業		印刷	機械器具部品
金属製品	非製造業		木材・木製品	金属製品	
窯業・土石			窯業・土石		
繊維製品			繊維製品		
食料品			食料品		
卸売業			卸売業		
非製造業	小売業	サービス業	非製造業	小売業	小売業
	飲食業			飲食業	
	建設業			建設業	
	不動産業			不動産業	
	運輸業			運輸業	
	運輸業	運輸業			

売上額・収益

製造業は増収増益を維持。非製造業は減収減益が続く

〔全産業〕

- ・ **前年同期比売上額DI**（売上額が前年同期と比べ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）は3.7となった。前期（マイナス2.9）に比べ6.6ポイント上昇し、プラスに転じた。プラスは2007年4～6月期以来、約3年ぶりのこと。

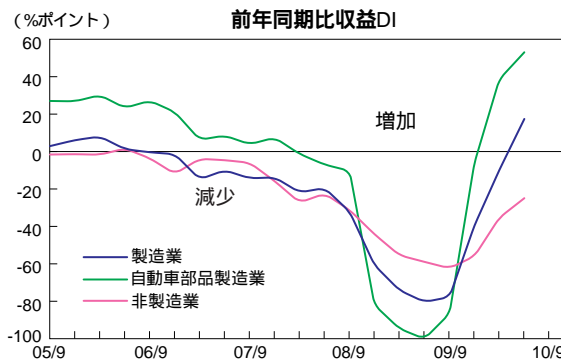
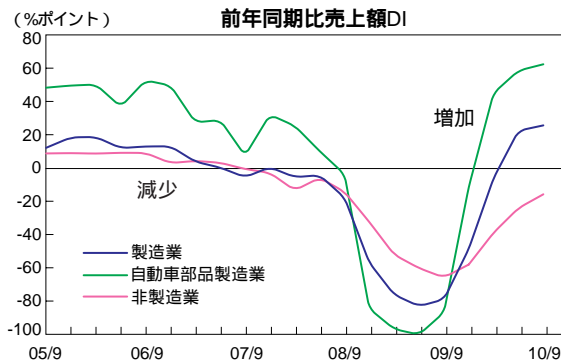
- ・ **前年同期比収益DI**(収益が前年同期と比べ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値)はマイナス1.5。前期(マイナス6.1)に比べ4.6ポイント上昇した。

〔製造業〕

- ・ **前年同期比売上額DI**は26.0。2四半期連続のプラス。
- ・ **前年同期比収益DI**は18.1。売上額と同様に2四半期連続でプラスとなった。
- ・ 製造業全体として、増収増益の傾向を維持した。

〔非製造業〕

- ・ **前年同期比売上額DI**はマイナス15.5。前期(マイナス23.8)に比べ8.3ポイント改善した。
- ・ **前年同期比収益DI**はマイナス18.4。前期(マイナス24.9)に比べ6.5ポイント改善した。
- ・ 非製造業全体では、依然として減収減益の傾向が続いている。



資金繰り

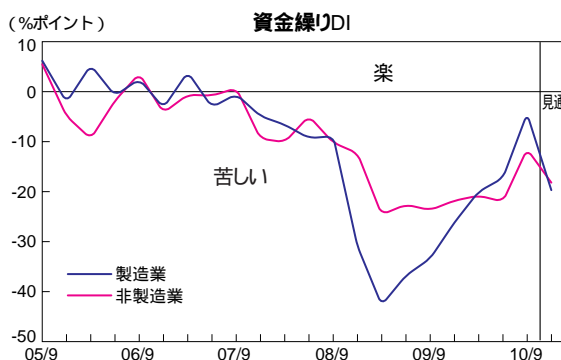
全体として悪化傾向だが、製造業、非製造業ともに改善

〔全産業〕

- ・ **資金繰りDI**(資金繰りが3カ月前と比べ「楽」と答えた企業の割合から「苦しい」と答えた企業の割合を差し引いた値)はマイナス8.2となり、前期(マイナス19.9)に比べ11.7ポイント改善した。
- ・ **資金繰り見通しDI**はマイナス19.1。再び悪化する見通し。

〔製造業〕

- ・ **資金繰りDI**はマイナス4.4。前期のマイナス17.3に対し、12.9ポイント改善した。
- ・ **資金繰り見通しDI**はマイナス19.7と、悪化の見通し。



〔非製造業〕

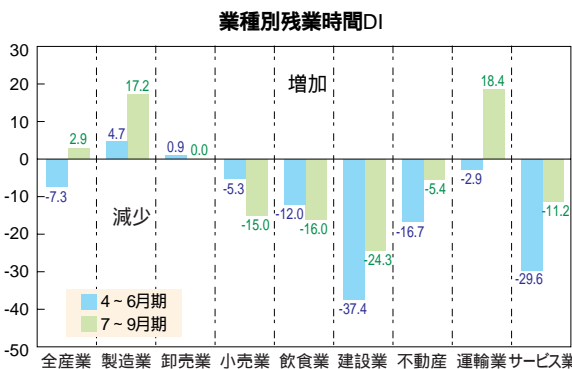
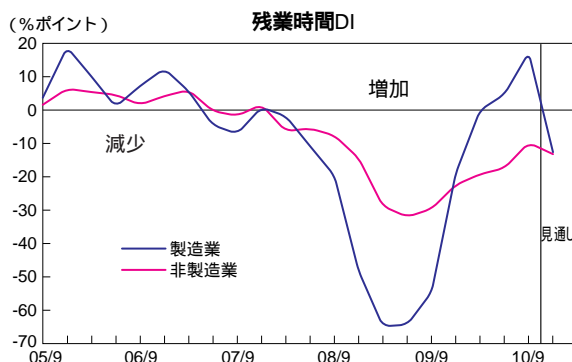
- ・ **資金繰りDI**はマイナス11.5。前期のマイナス22.0に比べ、10.5ポイント改善した。
- ・ **資金繰り見通しDI**はマイナス18.2と、6.7ポイントの悪化を見込んでいる。

雇用

11四半期ぶりに残業時間が増加に転じる。人手の余剰感は、ほぼ解消

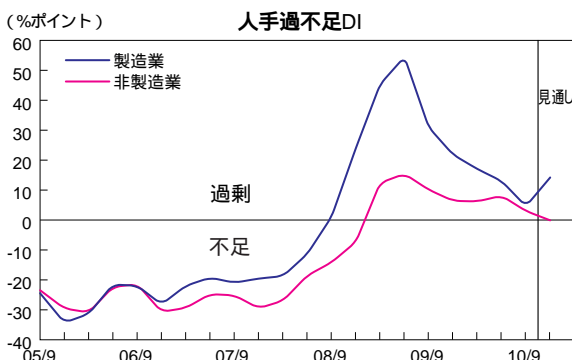
〔全産業〕

- ・ **残業時間DI**（残業時間が3ヵ月前と比べ「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いた値）は2.9と、前期（マイナス7.3）に比べ10.2ポイント上昇した。残業時間は増加に転じた。
- ・ 残業時間の増加は2007年10～12月期以来、11四半期ぶり。
- ・ **残業時間見通しDI**はマイナス12.9。再び残業時間は減少する見通し。
- ・ **人手過不足DI**（人手が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）は、全産業ベースで3.8 となった。前期（10.5）に比べ6.7ポイント低下している。
- ・ 人手過剰感は、ほぼ解消された。
- ・ **人手過不足見通しDI**は6.6となっている。



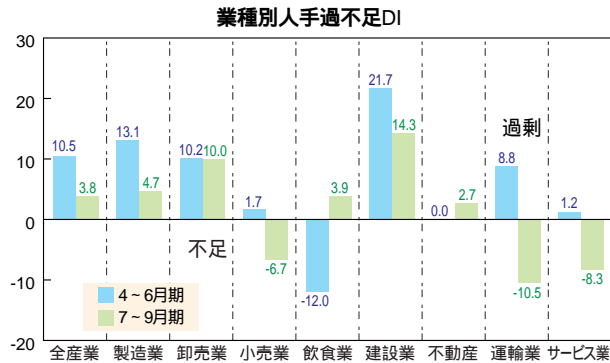
〔製造業〕

- ・ **残業時間DI**は17.2。残業時間の増加傾向が続いた。業種別にみると**自動車部品、機械器具部品**は引き続きプラスを維持、**金属製品、窯業・土石**がプラスに転じた。
- ・ **残業時間見通しDI**はマイナス12.6。残業時間は1年ぶりに減少に転じる予想。
- ・ **人手過不足DI**は4.7、前期（13.1）に比べ8.4ポイント低下。
- ・ **人手過不足見通しDI**は14.3となっている。人手過剰感は、やや増す見通し。



〔非製造業〕

- ・ **残業時間DI**はマイナス9.8と、前期（マイナス17.4）に比べ7.6ポイント上昇した。
- ・ **残業時間見通しDI**はマイナス13.2となっている。
- ・ **人手過不足DI**は3.1と、前期(8.2)に比べ5.1ポイント低下した。非製造業のうち7～9月期に人手不足に陥ったのは**小売業、運輸業、サービス業**。
- ・ **人手過不足見通しDI**は0.0。小売業、飲食業、サービス業で人手不足を予想。

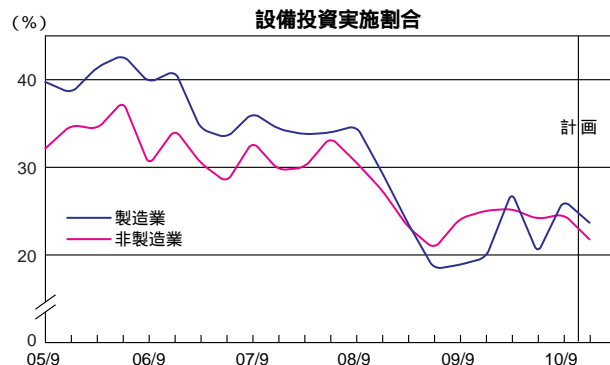
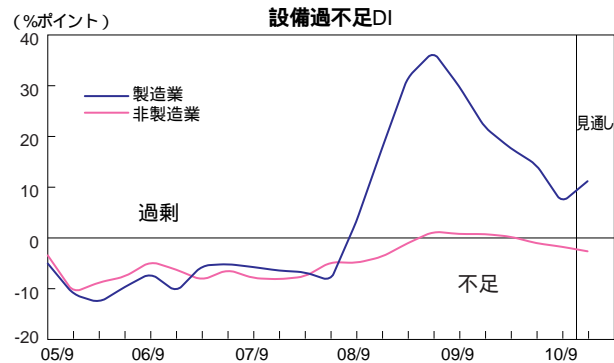


設備

設備過剰感は緩和されつつある。設備投資実施率は25.5%

〔全産業〕

- ・ **設備過不足DI**（設備が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）は2.5となった。前期（6.5）に比べ、4.0ポイントの低下。
- ・ 設備の過剰感は緩和されつつある。
- ・ **設備過不足見通しDI**は4.1。
- ・ 7～9月期に**設備投資（リース・レンタルを含む）を実施**した企業は25.5%と、前期（22.3%）に比べ3.2ポイント上昇した。
- ・ 10～12月期に**設備投資の実施を計画**している企業は22.7%となっている。



〔製造業〕

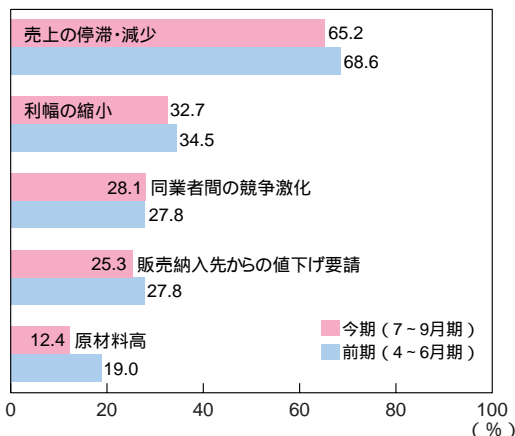
- ・ **設備過不足DI**は7.0。前期（14.5）に比べ7.5ポイントの低下。
- ・ **設備過不足見通しDI**は11.2となっている。

〔非製造業〕

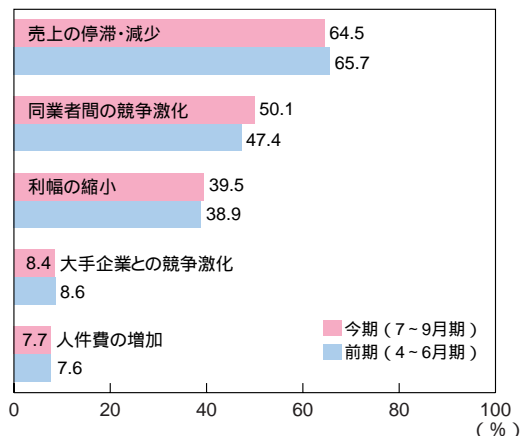
- ・ **設備過不足DI**はマイナス1.7となり、前期（マイナス1.0）に比べ0.7ポイント低下した。
- ・ **設備過不足見通しDI**はマイナス2.6となっている。

経営上の問題点

製造業

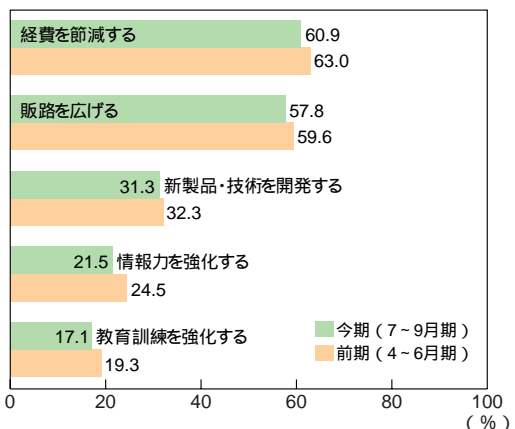


非製造業

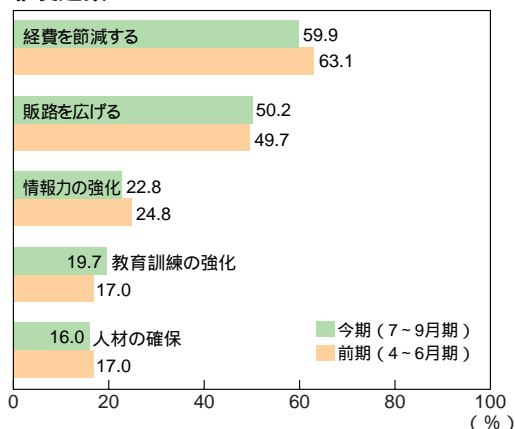


当面の経営重点施策

製造業



非製造業



【調査要項】

実施期間: 2010年8月26日 ~ 9月9日

調査対象: 県内の当金庫のお取引先947社 (下記参照)

調査方法: 郵送および面談によるアンケート調査

分析方法: 業況、売上、収益、資金繰り、人手などについて、「良い」(増加など)と答えた企業割合から「悪い」(減少など)と答えた企業割合を差し引いた値 (DI: Diffusion Index) を中心に分析

	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	不動産業	運輸業	サービス業	合計
対象先数	424	117	71	28	131	47	39	90	947
回答数	393	105	61	26	115	42	38	74	854
回答率 (%)	92.7	89.7	85.9	92.9	87.8	89.4	97.4	82.2	90.2